

わたしたちの同窓生

《101周年》

会員数 28,910名

平成12年4月1日 現在



同窓会報

椎の樹

2000. 4. 1 第14号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校

同窓会

高崎市稲荷町20 電話 (027) 362-2585

発行責任者 斎藤 民

印刷所 ほその印刷

第19回 上毛出版文化賞
記念誌部門受賞 平成十一年十二月二十一日

朝夕まどに

【詳しくは3面に掲載】

未来につないだ百周年

祝 同窓生による記念演奏会



ご挨拶

同窓会長 斎藤 民

同窓会員の皆様、ご健勝を祈り、二千年という年を、ご健勝で迎える事とお喜び申し上げます。昨年は母校高女の創立百周年を祝し、数々の記念事業を皆様の絶大なご協力のもと盛大に挙行出来まして、誠に有難う存じました。

足掛け三年をかけた記念誌「朝夕まどに」も大好評で増刷に増刷を重ねました。その上、嬉しい事に上毛新聞社より上毛出版文化賞の栄誉を受け表彰されました。

5月16日群馬音楽センターで催された演奏会、昼の部（邦楽・夜の部（洋楽）共に満員の聴衆に感動していただき大盛況でございました。引き続き5月21日から26日の一週間シテギヤラー全館を借りきっての同窓会展（書道・絵画・工芸・写真・華道・茶道の呈茶）も同窓生の素晴らしい活躍振りに来館された皆様大感激でございました。

6月13日ビューホテルで同窓会総会並びに同窓会としての百周年記念式典、続いて祝賀会を挙行了いたしました。

長年心にかかっておりました旧校舎跡地（市文化センター）の八十周年記念に建てました「群馬県立高崎女子学校発祥の地」という小さな碑を永久保存出来たこと、この度整備いたしました。この他例年行っております

旅行は、昨年は日帰りとして、旅行委員のご尽力で「歌舞伎」の鑑賞に決まり芸術祭参加の演目で百周年にふさわしい素晴らしい旅行になりました。

ふり返ってみますと、まことに忙しい充実した嬉しい一年間でした。各事業の実行委員の皆さんご自分の生活を犠牲にしてご協力ご尽力下さいました。また当委員会報、名簿の各委員の皆さんも例年になく特別のお骨折りをしていた下さいます。ほんとうに有難うございました。

三年後には同窓会自身の百周年を迎えます。3月1日新入会員をむかえ新しい風を受け入れ益々充実した輝かしい会として歩いてまいります。何卒皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

二百周年に向けて出発を



校長 中村 隆明

同窓会の皆様、日頃から母校へ変わらぬご支援を賜り衷心よりお礼申し上げます。

母校は、平成十一年五月一日、めでたく創立百周年を迎えることができました。好天に恵まれ、大勢のご来賓のもと、荘厳なうちに盛大な記念式典を挙行することができました。これもひとえに、同窓会員の皆様のご理解ご協力のおかげであり、重ねてお礼申し上げます。

私は昨年四月、本校に赴任し、これを機会に「九十年史」をひもといてみました。それによると、現在に至るまでの百年は正に激動の世紀でした。わけでも、国家の命運を賭けた戦中においては、勤労動員などにより、学業もままならない状況を余儀なくされ、また、戦後の時代においても、混乱の影響を避けることはできなかったと随所に記されております。

ところで、記念式典の式辞の中でも触れましたが、実は本校は、百周年に当たり、いわゆる箱物としては、図書館の増改築、記念碑の建立のみで、質素なものとしたしました。ともすれば、百年に一度のことだからと、大事業を計画するのが通例の今日、平成不況の折り、関係各位に経済的な負担をおかけしたくないという前任校長の英断に、私も賛同いたしました。どうぞご理解をいただきたいと思っております。

さて、同窓会の皆様によって編纂されました、百周年記念誌「朝夕まどに」が、この度、上毛新聞社から出版文化賞の栄に輝き、過日、表彰式・祝賀会に私もお招きをいただきました。本当におめでたうございます。拙い推薦文をしたためた者として、また、母校の校長としてこの上ない喜びであり、心からお祝い申し上げます。

今年は本校にとって、過ぎ去った百年を回顧する年であるとともに、創立二百年に向けた旅立ちの年、言うなれば、伝統の継承と発展を誓う年でもあります。

同窓会員の皆様には、今後とも母校への一層のご理解・ご協力をお願いし、併せて、会員の皆様のご健勝と同窓会の益々の発展をご祈念申し上げます。あいさついたします。

創立百周年 記念式典・総会・祝賀会

〔平成11年6月13日（日）ビューホテルにて〕



記念式典・総会



↑ 祝賀会

アトラクション テノール独唱 角田和弘氏



↑ イングリッシュホルンとピアノのためのアリオーソ



長唄舞踊「元禄花見踊り」↑



↑ 仕舞「采女」

5月16日(日)

群馬音楽センターは
高女一色

↓ チェンバロの伴奏でソプラノ独唱「夢」



↑ ソプラノ独唱
「この道」



↓ 箏曲舞踊「八千代獅子」



箏曲「花」↓



↑ ショパン・「ワルツ
変イ長調 op.34-1」

↓ 笙「織女」



← 長唄舞踊「近江のお兼」



↑ 合同演奏・校歌 満場心ひとつに……



↑ ソプラノ独唱
「セレナータ」



5月21日(金) 5月26日(水) 高崎シテ
「同窓会展」
館「同窓会展」
イギャラリーにて全



会場は時間の
流れが一瞬止まり、
また過去から未来へと
静かに流れ出す…



6部門合同
のテープカット
でオープン!



出品者の年齢は97歳から25歳まで。市外県外からも多くの力作が寄せられました(書道)。Mさんの、葉っぱに全卒業生の名が書き込まれた作品は大評判でした(絵画)。母校が百周年、私は古稀・今出さねばいつ出すのかと思って出品しとても幸せです(工芸)。高女校章の焼印を押した薯蕷(じょうよ)饅頭が好評で多勢の方がお茶を楽しんで下さいました(茶道)。— 交歓会での発言より—



↑ 出品者交歓会・コアホールにて



百周年行事に
参加できると
とても感激です

百周年記念誌『朝夕まどに』

第19回上毛出版文化賞受賞！

平成11年12月21日、斎藤会長他記念誌関係者10名が、上毛新聞社上毛ホールにおける上毛賞贈呈式に列席しました。上毛賞は、出版文化・社会・

芸術・音楽・文学・スポーツ等に優れた業績をあげた方や団体、スポーツ振興に貢献された方を対象として選出されるものです。『朝夕まどに』は、一八九九年の開校以来、明治から平成に至る四つの時代を生きた高女生徒達の青春の軌跡が、様々なエピソードや思い出と共に凝縮され、又生の声で綴られたドキュメンタリーです。高女の百年史としても興味深く、次代を担う後輩達にとっても良き指針となり、美しい錦の帯を、連綿と織り成して下さることを願っています。



選考経過に、「記念誌のかたさを感じ、楽しく編集した点が評価された。」とありますが、これもひ

『朝夕まどに』を 読んで

中野敏宗(元校長)

今は亡き同窓会長神保充子氏は「私が一年のとき前橋市立が県立となり、本校名に高崎の二字が入りました。その際の校長先生の校名が変っても異下一古い学校の誇りは今も続けるようにとの教えは

今も忘れません。」と語っていました。この度の記念誌を読み、まずこの言葉が思い出され、明治から平成まで各期の卒業生が綴る生の言葉の集録は一般校史にはない迫力をもつて伝統の重みを実感させ

ます。これからの生徒にも永く読ませたい。特に戦時中きびしい苦難を強いられた卒業生達の寄稿は、今の自由と平和に恵まれた生徒達には是非読んで欲しいと思います。

佃 和朋(元校長)

『朝夕まどに』を読んだの印象は、まさに「宝石箱」を開いた時の輝きに溢れた感動でいっぱいでした。学校とは別に同窓会の皆様の手になる創立百年記念誌発行も素晴らしいことですが、二十世紀を貫く高女魂と学校像の変遷が一大スペクタクルとなり、高女栄光の足跡が手に取るように見えることも驚きでした。新し

とえに、記念誌に投稿をいただいた同窓生の皆様を始め、多忙を極めた編集会議で、推敲に推敲を重ねた編集委員の尽力と努力、また同誌を御推薦下さった大木校長のおかげです。ここに改めて感謝と御礼を申し上げます。なお、贈呈式では、昭和39年から13年間、高女の英語教諭を務められた北瓜蔵次先生が、第35回「上毛文学賞」短歌部門で入選され、又第23回「上毛芸術奨励賞」彫刻部門で、37期の上原三千代さんも受賞されました。偶然のこととはいえ、受賞と再会を喜び会ったことを追記させていただきます。

斎藤 信子(高20回)

い校歌が制定されるまでの長い間、「金剛石の歌」が歌われたことや、斎藤会長さんの恩師の方の玉稿、行き届いた編集企画など、全編を通じ伝統と風格に満ちた古き良きものの中に、新しい高女の未来像が新鮮なタッチで描写されているのが印象的でした。

山田 君子(女29回)

先日御送付いただいた『朝夕まどに』には、感慨無量でした。小さな顔の卒業写真に、友人の顔を見出し涙しました。

矢島 かつ(女32回)

同窓会記念誌『朝夕まどに』を、なつかしく楽しく読ませて頂いております。百周年の祝賀会に出席出来ればと思っております。同窓会役員の皆様ありがとうございます。

関田 照子(女36回)

創立百周年おめでとうございます。離れて暮らす者にとりまして、同窓会報等に接する時、懐かしさ嬉しさは一層のものでございます。御発展の程お祈り申し上げます。『朝夕まどに』に胸があつくなり

同窓会だより

高女創立百周年記念 歌舞伎座観劇旅行

富澤 晶子(高24回)

10月17日に母校創立百周年を記念して、100名の同窓生はバス2台で歌舞伎座へとお出かけしました。昼の部の演目は、芸術祭参加公演で、まさに百周年記念にふさわしいものでし



スポーツ交流

●ゴルフOG会

どんぐり会

村田喜代子(女45回)

創立百周年おめでとうございませう。色々のイベントを味わわせて頂き、その話題に花を咲かせながら私達も六月四日、ローズベICCで、コンペを行いました。唯学校にゴルフ部が無いので生徒と交流試合が出来ず残念でしたが現在約百名近い会員を擁し年齢差も広くなり、同窓生と在校生が一緒にラウンドをしている様な錯覚をおぼえました。この会の発展は会員の絶大な協力があればこそと感謝い

幕間には、まさに幕の内弁当をおいしくいただきました。

二幕目は「茶壺」。今回大変わ世話になった左團次さんが花道から登場すると、同窓生の席からひととき大きな拍手がわきおこりました。軽妙なかけあい、一問おくれの踊りの動きがなんとも楽しい舞台でした。

三幕目は「妹背山婦女庭訓吉野川」。なんとこれも玉三郎の美しさ、芝翫、幸四郎、染五郎という豪華なメンバーで、これぞ歌舞伎という本格的な舞台でした。悲恋の物語に、そっと目頭をおさる方の姿も見られました。

歌舞伎座の感動を胸に銀座第一ホテル15階の「トップ・オブ・ギンザ」で中華バイキングを楽しみました。

日本の伝統文化のすばらしさを再認識し、おいしいお食事で楽しい語らいをすることができて、とても心豊かな秋の一日でした。

ご尽力いただきました同窓生の方々、幹事の方々に厚く御礼申し上げます。



●バレー部OG会

角田智恵子(女39回)

百周年を記念して部活動の思い出の文集『絆』を出版しました。5月23日(日)約90名が母校体育館に集合し、OGと在校生の混合3チームで交流試合を楽しみました。その後、高崎ビューホテルに移り、恩師を囲んで和気藹々の懇親会を開き、思い出話に花を咲かせました。有意義な楽しい一日でした。



●バスケット部OG会

綱島千栄子(高19回)

母校創立百周年を記念してバスケット部OG会は、平成11年5月2日、母校体育館に



同窓会名簿

桑原芳美(高16回)

調査・広告・賛助金と皆様から沢山のご協力を頂き発行できました。浅黄色の明るい表紙は百年を迎えた母校のすがすがしさを、そしてその中に百周年記念行事、同窓会展に出品された福島節子さんの作品(校歌)を配置しました。グラビアは記念行事の数々のスナップ写真を載せました。

今回の特徴の索引は旧姓、改姓どちらからも探すことができます。改訂にあたり、誤りのないよう配慮致したつもりでしたが、いくつかの点で訂正する箇所がありました。購入された方には訂正表が送付させていただきます。購入をご希望の方は事務局までご連絡ください。

於いて、現役を交えて交流試合を行い、時を越え、年を忘れ、学生時代に帰った様に、心地よい汗を流しました。午後6時よりサンパレスで約一二〇名の仲間が恩師を囲み、思い出話に花を咲かせ、又、アトラクションではバスケットOGのシャッソング歌手、栗原道子さんの歌を聞き、夜遅くまで楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

同窓会 総会開催の お知らせ



平成12年度行事予定

5/1(月)	総会
9/1(金)	旅行申込日
10/22(日) ~23(月)	親睦研修旅行
2/4(日)	新年会(ビューホテル)
3/1(木)	同窓会入会式
4/1(日)	会報15号発行

- ※会議
- (1) 常任委員会
 - (2) 期別幹事役員会
 - (3) 旅行企画委員会
 - (4) 会報編集委員会
 - (5) 合唱団運営委員会
 - (6) その他
- ※旅行、新年会へご参加ください。

◇転入された先生(敬称略)

教頭 小野 博文(安中)
総務部長 萩原 勲(太田)
国語 宮崎 弘一(桐生)
国語 生方 美香(万場)
数学 戸塚 淑巳(前西)
化学 佐島 賢一(前女)
生物 森川 貴男(伊東)
英語 岡田 恵子(富東)
書道

こちよい春風に心ときめくころとなりました。百周年行事では皆さまに大変ご協力をいただきました。厚くお礼申しあげます。今年の総会は下記のとおりです。お誘い合わせで、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 5月1日(月)12時~
場所 母校・椎樹館 和室

母校の近況

1クラス40名、学年8クラス、全校で960名の規模となりました。11年度は総体女子の部で総合優勝しました。学習や部活動に力一杯取り組んでいます。
進路状況：進学者289名、就職2名、浪人その他33名。国立大入学者120名、公立大25名、私立大148名、短大5名、専修各種7名。

●教職員人事異動

◇退職された先生
書道 大川 清子先生
(兼務されていました)
◇転出された先生(敬称略)
教頭 上野 臣吾(高崎東校長)
事務部長 外山 嘉男(高崎)
国語 高野 英之
(伊勢崎工定時制教頭)
国語 小林 功(下仁田)
理科 岡崎 太郎(渋女)
理科 島山 広一(沼田)
数学 大野 俊彦(高崎)
英語 木村 高己

◆母校創立百周年おめでとうございます。卒業後50年が夢のように過ぎ去りました。転勤族の相棒と二人で、娘の嫁ぎ先、倉敷へ終生の住居を。毎年送っていた「椎の樹」で、「故郷は遠くにあっても想うもの」と平和な日々がすぎております。

岡山県倉敷市
岡村清江(女48回)

名古屋市中区
西宮由美(高28回)



◆高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。
父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとっていただきましたので私のアルバムには、四十五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれていたように、ユニークで楽しい一九で、高女生としての日々を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しています。

滋賀県甲賀郡
田畑まつ(女29回)

◆高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。
父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとっていただきましたので私のアルバムには、四十五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれていたように、ユニークで楽しい一九で、高女生としての日々を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しています。

多胡 佳織・羽田みず恵
須藤 真世・大金由美子

第14号編集委員会

吉野烈子(高9回)

同窓会長・斎藤民(女26) 副会長・角田智恵子(女39) 吉村晴子(高5) 吉野烈子(高9) 編集委員長・編集委員・笹本幸子(女44) 金井幸子(高3) 岡田俊子(高4) 善如寺尚子(高17) 設楽多恵子(高18) 武井治子・網島千栄子(高19) 斎藤信子(高20) 丸山ちひろ(高21) 田中和子(高22) 福田和子・渡丸俊江(高23) 富澤晶子・宮尾志津子(高24) 林いずみ・井上ちはる(高25) 事務局・桑原芳美(高16) 堀口まこと(高19)



アトラクションは、山崎真由美さん(高23回)が会場一杯に響くソプラノで「はる」「紫陽花」他を、華やかなドレスで熱唱。またこの日の為に猛練習してこられた同窓会合唱団の方

第48回 京浜地区同窓会開催

創立百周年の記念すべき年に当たる第48回京浜地区同窓会は7月4日に催されました。梅雨のなか高崎、また遠くから足を運ばれた方々にお天気も味方をしてくれました。今回は百八十三名の同窓生を乗せての豪華客船ヴァンティアン号で東京湾クルーズをしながらの宴です。元NHKアナウンサー古藤田さんの司会をかわきりに、斎藤民会長、恩師熊倉先生、大木校長、林支部長よりご祝辞を賜わり、桑原同窓会理事の乾杯

とお祝い、おめでとうがあふれました。宴もたけなわの中スライドで椎樹の由来・制服の変遷・戦争中の女学生・新校舎へと百年の歴史を振り返りました。続いて、現在オペラ歌手の神原さんが優雅な愛のイタリア歌曲を唱うミニコンサート。最後は高女の発展を祈り、来年も会えますようにと願いながら、斎藤民会長の指揮により校歌を斉唱。閉会となりました。

高24回幹事代表 松本万里

同窓会入会式

入会のことば

新入会員代表 南村 絃美

暖かい春の色があちこちに感じられるこの良き日に、私達は先程、卒業式を終えることができました。

希望に胸を躍らせた入学式に始まり、最良の師や友と過ごした高女での思い出が一瞬のうちに溢れてきます。その間に数々の御指導を賜りました同窓会の皆様へ改めて

感謝申し上げます。また在校中に創立百周年を迎えることができ、大変光栄でした。明治三十二年の創立以来培われてきた高女の歴史と伝統を改めて感じました。今日から私達もこうした素晴らしい歴史と伝統を兼ね備えた高女同窓会に加えて戴きます。諸先輩方と同様に自覚を持ち、良き伝統を伝え、さらに発展させられるよう努めていきたいと思っております。

今後とも変わらぬ御指導御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成十二年三月一日

一期別幹事
多胡 佳織・羽田みず恵
須藤 真世・大金由美子

◆母校創立百周年を祝っての同窓会行事も、多勢の方のご協力により賑やかに開催されました。この一年を振り返りまた、参加されなかった方にも様子を伝えたい、との思いを込めてカラーにいたしました。編集委員一年目から十四年、卒業回期にも巾のある委員会ですが、よいものを創りたいという同じ思いが集まりました。思惟庵での会議が気持ちよく運べるようにと庭をきれいにしておいて下さった公使さん、「こんにちは」と挨拶してくれる在校生、四季折々の木々の移ろいと、校門をくぐる小さな発見と喜びがありました。感謝と共に記念号をお届けします。

編集委員長 吉野烈子(高9回)

出版祝賀会・新年会開催

中野敏子(高23回)

2月13日、高崎ビューホテルで開催された今年の新年会は、同窓会百周年誌『朝夕まどに』の上毛出版文化賞受賞祝賀会との二重のお祝いで、出席者約三百人の、ひととき華やいだ会となりました。

祝賀会には、斎藤民会長のご挨拶の後、刊行委員代表の笹本幸子さん(女44回)より記念誌完成までのエピソードを混じえての経過報告があり、元校長の佃先生、清水教育振興会長、元教諭の持田章先生、上毛新聞社出版局の見立様よりご祝辞を頂き、受賞の喜びに溢れた会となりました。

続いての新年会は、斎藤民会長のご挨拶、大木校長先生、上野教頭先生よりのご祝辞、外山事務部長の乾杯で、二つの会の祝宴が始まりました。

々々、小川久美子さん(高18回)の指揮、指方容子さん(高20回)のピアノ伴奏で「野葡萄」他二曲を奏で、ハーモニウムで披露し、宴に華を添えて下さいました。

事務局からのお知らせ、高23回から高24回への当番期の引き継ぎが行なわれ、校歌の合唱と共に閉会となりました。



吉村晴子(高5回)

第15回椎樹祭は、6月5日6日にわたり「百花繚乱」さなる飛躍へのテーマのもと、在校生の活発な発表がくりひろげられました。

同窓会では、母校百周年の佳き年をお祝いして、今回は書道・絵画・工芸・写真・華道の各分野の精鋭作品を揃え、記念の展示といたしました。

隔年の椎樹祭参加は、頼もしき若きパワーにふれる時であり、創作に励む同窓生とのよきかけ橋となっております。

旅行

平成12年度 親睦旅行のお知らせ

旅へのお誘い

~きっと何かに出合える

秋の信濃路散策~

1. 期日 平成12年10月22日(日)~23日(月)
2. 場所 長野・上諏訪・上田方面
3. 費用 35,000円
4. 定員 45人(バス1台)
5. 行程 22日(日) 高崎駅東口(8:00) = 長野市内散策(東山魁夷館他) = 上諏訪温泉・ホテル浜の湯(16:30) 23日(月) ホテル = 諏訪北澤美術館 = 別所温泉(昼食) = 信濃デッサン館・無言館 = 高崎駅東口(18:30)
6. 申し込み 平成12年9月1日(金) 10時~15時 母校 椎樹館 TEL027(362)2585